

参考文献リスト(4-2 海水温の上昇等によるイカナゴの資源量への影響調査)

No.	著者(公表年)、文献名、学術誌名、巻(号)、ページ	概要	URL
1	山田浩且(2011) 伊勢湾におけるイカナゴの新規加入量決定機構に関する研究、三重水研報、19号、1-76	イカナゴの雌における卵成熟の進行において、卵黄形成は、20℃前後への水温低下とともに開始する。また、最終成熟段階への移行は、主に水温15℃以下で生じ、11℃付近への水温低下で産卵が行われる。水温が高いほど、夏眠時の死亡率が高まる傾向がある。	http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000394366.pdf
2	井上明、高森茂樹、国行一正、小林真一、仁科重己(1967) イカナゴの漁業生物学的研究、内海区水産研究所研究報告、25号、1-335	水温6.2~15.7℃では水温上昇とともに孵化までの日数が短縮される傾向が確認されている。孵化率は8℃付近を最高に、水温が上昇するほど低下することが示唆されている。	http://feis.fra.affrc.go.jp/publi/bull_naikai/bull_naikai2501.pdf
3	山下洋、青山恒雄(1985) 三陸沿岸におけるイカナゴ卵のふ化時間と初期成長、日本水産学会誌、51巻、1777-1780	水温6.5~15.5℃では水温上昇とともに孵化までの日数が短縮される傾向が確認されている。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan1932/51/11/51_11_1777/_pdf/-char/ja
4	日下部敬之、大美博明、斉藤真美(2007) 耳石日周輪解析による東部瀬戸内海産イカナゴ仔稚魚の成長、水産海洋研究、71巻、263-269	水温9.0~10.6℃では水温上昇とともに成長が促進されることが確認されている。	http://www.jsfo.jp/contents/pdf/71-4-263.pdf
5	富山実、小松輝久(2006) 水温が伊勢湾産イカナゴ初期生活史の成長と加入資源量に与える影響、水産海洋研究、70巻、114-121	水温8.6~10.6℃では水温上昇とともに成長が促進されることが確認されている。	http://www.jsfo.jp/contents/pdf/70-2-114.pdf
6	宮内正幸、的場達人(2011) 福岡湾口域におけるイカナゴの発生初期段階の成長と夏眠期の生残に及ぼす水温の影響、福岡県水産海洋技術センター研究報告、1-6	水温13.5~15.7℃において、水温上昇とともに成長が鈍化することが確認されている。	http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/gaiyo/kenkyuu/Vol21/k21-1.pdf
7	反田実(1998) 内海漁場—イカナゴと底質、in 平野敏行(eds). 沿岸の環境圏、フジ・テクノシステム、348-355	瀬戸内海のイカナゴにおいて、水温20.5~21.5℃を越えると夏眠を開始する。	
8	柳橋茂明、船越茂雄、向井良吉、中村元彦(1997) 伊勢湾産イカナゴの夏眠期における生き残り成熟、産卵機構、愛知水試研報告、4号、23-31	伊勢三河湾のイカナゴにおいて、栄養状態の良い個体では水温21.0℃を越えると夏眠を開始するが、栄養状態の悪い個体では23℃を越えても完全に夏眠に入りきらず摂餌行動を持続する。	https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010810333.pdf
9	赤井紀子、内海範子(2012) 瀬戸内海産イカナゴの死亡と再生産に及ぼす夏眠期における高水温飼育の影響、日本水産学会誌、78巻、399-404	水温が高いほど、夏眠時の死亡率が高まる傾向がある。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/78/3/78_11-0705/_pdf/-char/ja
10	新野洋平、柴田淳也、富山毅、坂井陽一、橋本博明(2017) 瀬戸内海中央部燧灘周辺におけるタチウオTrichiurus japonicusの食性、日本水産学会誌、83巻、34-40	瀬戸内海中部燧灘においてタチウオがイカナゴを多く捕食していることが確認されている。	https://www.jstage.jst.go.jp/article/suisan/advpub/0/advpub_16-00032/_pdf/-char/ja
11	富樫博幸、中根幸則、栗田豊(2015) 安定同位体比を用いた食物網解析、水産海洋研究、79巻、369-372	宮城県仙台湾における調査にて、マダラ、カナガシラ、スズキ、アイナメ、ヒラメ、イシガレイ、マガレイ、マコガレイにおいてイカナゴを捕食していることが確認されている。	
12	鶴崎直文、澤田知希、日比野学、加藤毅士、谷光太郎(2014) イカナゴ被食状況調査、平成25年度愛知県水産試験場業務報告、96-97	伊勢湾における調査にて、オキエソ、トカゲエソ、アカヤガラ、ホウボウ、スズキ、コショウダイ、クロダイ、シログチ、ヒラメ、サバフグ類においてイカナゴを捕食していることが確認されている。	https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/49638.pdf
13	山田浩且、久野正博(1999) 夏眠期における伊勢湾産イカナゴのへい死条件、三重水研報、8号、1-5	伊勢湾のイカナゴを用いた研究にて、同一の水温で飼育した場合、肥満度の低下とともに死亡率が高まることが確認されている。	https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=200902138261725472&re=0
14	西川哲也(2018) 播磨灘における夏眠期のイカナゴ肥満度、水産海洋学会地域研究集会 第1回東部瀬戸内海研究会講演要旨集 東部瀬戸内海のイカナゴ資源と環境を考える、14-16	瀬戸内海播磨灘のイカナゴについて、夏眠前の肥満度が近年低下傾向にあることが確認されている。	

15	兵庫県立農林水産技術総合センター 2012～2018 兵庫県立農林水産技術総合センターだより: イカナゴ親魚調査結果	兵庫沿岸のイカナゴにおける繁殖期の親魚調査より、生殖腺熟度指数の推移から毎年の繁殖盛期に関する情報が公開されている。	http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-17-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-16-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-15-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-14-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-13-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-12-01.pdf http://www.hyogo-suigi.jp/ki/pdf/SG-11-01.pdf
16	Nishikawa T, Nakamura Y, Okamoto S, Ueda H. H.,(2020), Interannual decrease in condition factor of the western sand lance <i>Ammodytes japonicus</i> in Japan in the last decade: Evidence for food limited decline of the catch, <i>Fish Oceanogr.Oceanogr.</i> , 29, 46-51.	播磨灘における現地調査を通じ、1990年以降のイカナゴ資源量の主要因は餌量の低下であることを示した。	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/fog.12448
17	大美博昭・日下部敬之・斉藤真美 (2006)、イカナゴ仔稚魚における耳石輪紋形成の日周性の確認、大阪水試研報、16、1-6	大阪湾におけるイカナゴ仔稚魚の成長を解析するための基礎データとして、イカナゴにおける耳石輪紋形成の日周性を確認した。	http://feis.fra.affrc.go.jp/seika/h11/feis1115.html